



第14回
なかじま まこと
中島 誠 さん

伊豆の国市観光協会 事務局長



連載
ジャルガルの
ほのぼの日記

第65回(最終回)
バヤルタエ



国際交流員がモンゴルを紹介!

皆さん、サエンバエノーは。日差しが照りつける中、ひまわりが空を仰いでいる今日この頃、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私は伊豆の国市内で穏やかに過ごした日々を振り返り、将来を思い描きながら最終回となるほのぼの日記を書いておきます。

平成30年1月に着任してから早々ふるさと博覧会体験プログラムを通して市民と触れ合う機会をいただき、その後もイベントごとに身近な国際交流をすることができました。平成30年4月号から母国の文化、習慣、現状などについて広報いずのくににほのぼの日記を掲載させていただきました。多くの人たちから賜った「読んでいいよ」、「面白いよ」といった温か

いお言葉に励まされ、毎月ほのぼの日記を書く時間は、楽しいひと時でした。5年半、職場の同僚、近所の皆さん、子どもたちの先生やクラスの友達、クラブの仲間など、たくさんサポートがあったからこそ無事任期を終えることができましたし、家族そろって楽しい思い出をたくさん作ることもできました。皆さん、本当にありがとうございます。

最近、帰国してから何をやるのかとよく聞かれます。自分自身は遊牧生活をした気持ちですが、自信がないのでまず夏の間は大草原でゲル生活をしたいと考えています。モンゴルのゲルは人と人をつなげる力があると信じています。皆さん、冒険したくてたまら

ない時、その目的がモンゴルであるとしたら、私のことを思い出し、ぜひ声をかけてください。令和7年4月に伊豆の国市は市制20周年、8月には伊豆の国市とソングノハイルハン区が友好都市に関する覚書を交わしてから10周年を迎えます。皆さんと同様に喜びを分かち合いお祝いすることができたらと思っています。最後になりますが、夏の疲れが出始めるころですので、皆さんくれぐれもお体にお気を付けてお過ごしください。

▼着任直後(平成30年)に撮影した私の子どもたち。



それでは、バヤルタエ。「バヤルタエ」とは、モンゴル語で「幸せとともにまた会いたい」という意味です。どこかで、皆さんにお会いできたなら幸せです。協働まちづくり課 055(948)1412



▲今年春に撮影した私の子どもたち。日本での約5年間でこんなに立派に成長しました。

※国際交流員として赴任していたムンフジャルガルさんは7月30日で任期満了となります。この連載は後任の交流員に引き継がれる予定です。ジャルガルさん5年半バヤルラー

『伊豆の国市』の
ブランド価値を高めたい

「伊豆の国市は、大きな可能性を秘めた『ブランド』なんです」と語る中島さんは、今年5月に観光協会の事務局長に就任したばかり。神奈川県出身で、東京での商社やアウトソーシングの仕事をした後、島根では第3セクターの経営に関わるなど、さまざまな職歴を持つ中島さんが「次は、地域のためになつて、未来へつなげる仕事をしたい」と思ったとき、偶然、伊豆の国市観光協会の募集に出会いました。それまでは『伊豆の国市』という

地名を全く知らなかったという中島さん。「私だけでなく周りの人も、伊豆長岡温泉や、世界遺産の葦山反射炉、北条ゆかりの地は知っていても、市の名前までは」という人ばかり。そこで、まずは『伊豆の国市』の知名度を上げることが必要だ、と考えました。

地元の人間はあまり気付かないけど、『伊豆の国市1年生』の中島さんだからこそ見えるまちの魅力がたくさんあるようです。「このまちは、素晴らしい資源や素材であふれている。でも、それがどれも単独で終わっているのがもったいない。」

中島さんの頭の中には、過去の経験から生み出されたさまざまな観光のアイデアが詰まっています。「単独の魅力をきつかけにして、『伊豆の国市』全体を繋げる仕掛けを日々、考えています。これをやれば必ず観光客が来るという正解はないけれど、失敗を恐れずに挑戦して、『伊豆の国市』のブランド価値を高めていきたいですね。」

中島さんが仕掛ける次のプランディングに期待が膨らみます。

かんたん手話講座 ④
絆

胸の前で4指を曲げて右手が上になるよう、上下に組んだ両手を下に2回おろします。しっかり結びついている様子を表現しています。

障がい福祉課
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029



私は、静岡県聴覚障害者協会の会員として活動しています。

耳が聞こえないという理由で、車の免許や医療関係などの資格を取得することができない時代が長く続いていました。しかし、仲間とともに運動・活動を重ねた結果、法律改正までこぎつけることができました。今では多種多様な資格が取得でき、職種選択も幅広くなりました。